

## 「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～中学校国語科～

### 第3学年単元名 状況に応じて話そう(第2/4時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。  
(思考力, 判断力, 表現力等)

### こんな授業になっていませんか？

#### 【教師の発問】



今日は、前回集めたスピーチの材料を基に、スピーチの内容を考えましょう。相手を意識して構成や表現を工夫することが大切です。

クラスで発表会をすることは伝えてあるから、友達に聞いてもらうことを意識して、構成や表現を工夫したスピーチを考えられるだろう。

#### 【生徒の反応】

「相手」って、友達のことだよね？ 普段から話している相手に、何を意識して話すといいのかな。



「クラスで発表会をする」と伝えただけでは、相手意識や目的を捉えづらく、具体的なスピーチの場面を想像できません。これでは、形式的にスピーチをするだけの活動になってしまいがちです。

**「見方・考え方」を働かせる意識をプラス！**

### 「言葉による見方・考え方」とは

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

### 生徒が「見方・考え方」を働かせるためには

## 言葉に着目させる問い掛けと効果的な言語活動の設定が大切です。

国語科は、言葉そのものを学習対象とする教科です。ですから、教師は言葉にこだわった教材研究をすることが大切です。「作者がこの言葉を使った意図は何か」「どの順序で話す聞き手の印象に残るか」「自分の思いを伝えるにはどの言葉や表現が最適か」など、言葉に着目した授業を展開することで、生徒は言葉に敏感になり、言葉を根拠に吟味し、論理的に考えるようになります。

そのためには、言葉を使った表現に意識が向くような意図的な問い掛けと、言葉にこだわり、言葉を手掛かりに考え、試行錯誤するような言語活動の設定が重要になります。普段無自覚に使っている言葉について、これまでの学びを振り返らせたり新たな視点を与えて問い直したりすることで、生徒が言葉を捉え直し、言葉への自覚を高めることができる授業にしていきましょう。

### 授業を こう変える！

- ・相手や目的を明確にした言語活動を設定することで、単元を通して言語活動を意識し、目標に向かって表現を工夫していきたいという意欲をもてるようにする。…**1**
- ・単元を通じた言語活動(6年生へのスピーチ)を意識させる問い掛けをすることで、具体的な相手や目的を想定しながらスピーチの内容を考えられるようにする。…**2**
- ・考えたスピーチを6年生の立場になって聞き合う時間を取り、質問や評価をする場面を設定することで、聞き手を意識した適切な言葉や表現を吟味できるようにする。…**3**

## このような授業にしていきましょう！

### 単元を通した言語活動

学校訪問に来る小学6年生に「充実した中学校生活の送り方」を提案する。それに向けてクラスで発表会を行い、クラスの代表を決める。【表現を工夫したくなる言語活動の設定】…①

### 【相手や目的を意識させる問い掛け】…②



今日は、前回集めたスピーチの材料を基に、その内容を考えていきます。6年生の記憶に残るスピーチにするにはどうしたらいいでしょうか。考えてみましょう。

充実した中学校生活といえば、やっぱり部活だな。部活を通して自分が成長したことを、ランキングで伝えたらどうだろう。3位から順に1位までを紹介したら、最後まで興味をもって聞いてくれるんじゃないかな。



「小学校と中学校で違うこと」を中心に、中学校の特徴を伝えるのはどうかな。中学校生活に不安がある人もいるから、プラスの印象を残せるように話したいな。



#### 〈生徒の姿〉

教師が、「記憶に残るスピーチにするには」と問い掛けることで、生徒はどんな内容や表現なら相手に伝わるかに意識を向けるようになります。小学生が興味をもつ話題は何か、どんな展開にすれば印象に残るかなど、聞き手の立場で考えることで、表現が広がっていきます。

### 【聞き手を意識させながら評価する活動の設定】…③



考えたスピーチを隣同士で発表し合ひましょう。聞き手は6年生になったつもりで聞いてくださいね。

部活の話題をランキングで紹介することは、興味をもって聞けるし、いいアイデアね。ただ、「団結力」って言葉が何回か出てきたけど、6年生は分かるかな？「力を合わせて」とか「協力して」という言葉に換えるのはどう？



そうか。でも「団結」の方が、友達とのつながりが強い感じがするから、ほくは「団結」を使いたいな。ほかに似た意味の言葉ってあるのかな。途中で説明を入れようかな。



#### 〈生徒の姿〉

お互いのスピーチを聞き合う時間を取ることで、生徒は客観的に自分のスピーチを見直すことができます。6年生の立場で聞くことで、改めて言葉の使い方や構成の工夫などに意識を向け、評価し合うことを通して、言葉や表現を吟味したり、自分の表現に生かそうとしたりしています。

## ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

### クラスのスピーチ発表会をする場面（第4時）で



いよいよ今日は発表会です。この中から代表として、6年生に発表するのにふさわしい人を選びます。みんなが審査員です。「評価の観点」を意識して聞きましょう。

やっぱりスピーチは、最初が肝心だと感じたな。最初が面白いと、その先も聞きたくなるね。相手は6年生だから、話は長すぎない方がいいね。聞き手を引き付ける工夫って、いろいろあるなあ。



内容だけではなく、声の大きさや調子も大切ね。6年生に向けた明るく優しい声は、親しみがもてるし、中学校生活に希望がもてそう。表情や身振り手振りも、記憶に残るポイントだと感じたわ。

#### 〈生徒の姿〉

既習の「評価の観点」を意識するよう伝えることで、生徒は様々な評価の観点があったことを思い出し、それを基に友達のスピーチを聞くようになります。6年生に向けて話す場面をイメージしながら聞くことで、言葉や表現だけでなく、話し手の声や姿から伝わる印象にも着目し、聞き手を引き付ける新たな視点に気付いていきます。これからの学習や生活でも、気付いたよさを生かしていこうという意欲につながります。